

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書

研究代表者 所属・職名 附属中学校・主幹教諭
 氏名 岩船 尚貴
 研究期間 令和5年度～令和6年度

| | |
|-------------|--|
| 研究プロジェクトの名称 | デンマークの読書教育が我が国の国語科教育に与える示唆：日本とデンマークの中学生でアンデルセン文学を読む実践的研究と現地スタディツアーを通して |
| 研究プロジェクトの概要 | <p>【研究の背景、問題意識】</p> <p>COVID-19の全国的な感染拡大により、GIGAスクール構想の実施が前倒しされ、教育現場におけるICT化が急速に広まった。2021年に中教審より出された「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」には、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている」とあり、ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の必要性が示された。対面での交流が難しいCOVID-19状況下や、アフターCOVID-19において、ICTを活用して「あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働」することが求められているといえよう。このような中、国語科におけるICTを活用して遠隔の他者と文学作品を協働的に読み合う実践は管見の限り、ほとんど報告されていない。令和の時代において、ICTの利点を最大に活かし、海外を含むあらゆる他者と協働しながら読みを深める国語実践の道を切り拓いていくことには、大きな意義があると考えた。</p> <p>【研究の目的】</p> <p>本研究の目的は、以下の2点である。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 国語科教育において、海外の他者とのICTを活用した文学交流による生徒の読みの深まりの過程や、協働的な学びの可能性を明らかにすること。 (2)現地視察や資料収集、共同実践のデータから、北欧デンマークの国語科教育や読書教育、ICT教育の特徴を明らかにし、我が国における国語科教育に知見を生かすこと。 |
| 研究成 果 の 概 要 | <p>(1)について</p> <p>日本とデンマークの中学生同士が自国の童話作家を教材にして、文学交流を行った。具体的には、「日本のアンデルセン」と呼ばれる新潟県上越市出身の作家小川未明と、デンマークの童話作家アンデルセンを取り扱った。</p> <p>実践研究の方法は以下の通りである。</p> <p>対象：上越教育大学附属中学校1年1組36名 交流相手：コペンハーゲン市立ランデスガーデ学校中等部16名 期間：令和7年3月7日～3月22日</p> |

方法：動画共有アプリ「Padlet」を使用し、以下のテーマについて動画を制作してデンマーク側へ送り、交流相手からフィードバックをもらった。

① アンデルセン「人魚姫」の解釈、日本での主題の捉え方

② 小川未明の紹介

③ 小川未明「赤い蠟燭と人魚」の解釈、日本での主題の捉え方

上記の動画を視聴したデンマーク側より、フィードバックとして、以下の動画が日本側に送られた。

④ アンデルセン「人魚姫」の解釈、デンマークでの主題の捉え方

⑤ アンデルセンの紹介

⑥ 小川未明「赤い蠟燭と人魚」の解釈、デンマークでの主題の捉え方、「人魚姫」との共通点や相違点

①から⑥の動画について、「Padlet」上で両国の生徒は、互いに疑問点や感想などを送り合い、文学交流を深めた。

令和7年3月25日「上越タイムス」に実践の内容が掲載され、市民に広く周知された(QRコードより電子版記事が閲覧可能)。



(2) について

研究プロジェクトメンバーで、両国の学校視察や資料収集、論文化に向けた打ち合わせを計4回行った（日本2回、デンマーク2回）※。両国の国語科教育の特徴や共通点・相違点を明らかにして、我が国の国語科教育発展に向けた知見を得た。

[令和5年度]

4月10日

- ・日本にて、プロジェクトメンバーで打ち合わせを行った（参加者：岩船、草間、釜田、森茂、佐藤、Marie 場所：上越教育大学附属中学校他）。

9月18日～21日

- ・デンマークにて、研究者メンバーで打ち合わせ及び現地の国語授業の視察と資料収集を行った（参加者：岩船、釜田、森茂、Marie、Thomas 場所：ランデスガーデ学校、アンデルセン博物館他）。
- ・デンマークにて、王立図書館及び市立図書館の視察と資料収集を行った。（デンマーク王立図書館、コペンハーゲン市立図書館他）
- ・デンマークにて、小中学校教員を対象にして国語科教育や読書教育についてのインタビュー調査を行った。（ランデスガーデ学校Thomas他）

1月28日

- ・日本にて、プロジェクトメンバーで論文化に向けた打ち合わせを行った（参加者：岩船、草間、釜田、森茂、佐藤、MARIE 場所：上越教育大学附属中学校他）。

[令和6年度]

9月7日～11日

- ・デンマークにて、研究者メンバーで論文化に向けた打ち合わせ及び現地の国語授業の視察と資料収集を行った（参加者：岩船、釜田、Marie、Thomas 場所：ランデスガーデ学校、コペンハーゲン大学他）。

| | |
|---------------------------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・デンマークにて、デンマークの教科教育及びICT教育についてのインタビュー調査を行った。（ロスキレ大学 安岡美佳准教授他） <p>※釜田、森茂は「日中韓協働研究による「異己」との対話と共創を重視した国際理解教育のプログラム開発」令和3年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）基盤研究(B) :2021年－2025年に旅費を計上した。</p> |
| 研究成果の発表状況 (※今後の予定も含む。) | プロジェクト終了から2年(2025.4~2027.3)の間に、「デンマークの読書教育が我が国の国語科教育に与える示唆」やICTを活用した協働的な学びの在り方について、論文を作成する。 |
| 学校現場や授業への研究成果の還元について | <ul style="list-style-type: none"> ・デンマークの研究者及び教員との交流を継続し、新潟県及び日本の教員とのつながりを広めていく。 ・今後も国語科授業において、小川未明（日本）とアンデルセン（デンマーク）についての文学交流を継続する。 ・デンマークの読書教育や国語科教育の強みや特徴について、自校の国語科授業や図書館教育に積極的に取り入れて成果を示していく。 |